

在京石鳥谷 町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋公男氏)

連絡所：在京花巻ふるさと会事務所
〒103-0004 東京都中央区東日本橋
3-5-9 市川ビル3階
TEL:03-6661-1925 FAX:03-6661-1926
事務局：高橋弘美
〒270-0127 千葉県流山市富士見台
1-10-40
携帯 080-5529-8803



2023年『ありがとうSL銀河(八幡田んぼアート)』 写真:在京石鳥谷町人会 副会長 菊池 正弘

【2023年 行事予定】

11月 5日(日) 令和5年度 在京石鳥谷町人会 総会・親睦交流会
会場： 上野 精養軒



在京石鳥谷町人会HP

ごあいさつ

在京石鳥谷町人会

会長 高橋 弘美



会員の皆様こんにちは。高橋弘美でございます。

この夏は「危険な暑さ」というこれまでにない言葉が気象庁やテレビのニュースで頻繁に聞かれました。暑さ指数が31以上になると危険な暑さになるのですが、暑さ指数というのは何？となりますが、気温と湿度と輻射熱の3つを取り入れた指標で、中でも湿度の影響が7割と一番高い要素とのことです。私が小学生の頃は日射病と言っていたように記憶していますが、お日様がカンカン照りの環境より湿度の方の影響度が高いとのことでした。そのような中においても皆様におかれましては水分をしっかりと取り冷房なども適切に使用する等健康にご留意されお健やかに過ごされたことと思います。

さて、在京石鳥谷町人会では令和5年度の目玉企画として新規会員募集プロジェクトを推進しています。その施策の一つとして「新規会員募集チラシ」を作成しました。このチラシにはQRコードも付けておりスマホをかざすだけで会員登録や照会ができるようになっています。このチラシをふるさと石鳥谷の皆さんに配布して当会の存在をアピールすると共にご家族や親戚・友人の皆さんのアクセスポイントにできないかと考え、各コミュニティの会長さん・区長さん・班長さんのご協力を頂いて石鳥谷町全世帯に配布させて頂きました(約5千枚弱)。結果既に数件の照会を頂いており手応えを感じております。ふるさとの皆さんの暖かい応援に深く感謝申し上げる次第です。

そして今年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ4年振りにお盆の時期に帰省しました。まずは在京石鳥谷町人会を支援して下さる協賛企業さんへのご挨拶訪問をさせて頂きました。各企業・団体の皆様から暖かいお迎えを頂き、これまでのご支援に感謝申し上げますと共に引き続いてのご支援をお願いして参りました。併せて石鳥谷花火大会も会場からちょっと離れたところから十分観覧させて頂きました。花火大会開催に向けた関係の皆様のご努力はひと方ならぬものがありその強い思いに感銘して参りました。

石鳥谷を遠く離れて暮らしている私にとってふるさとからの応援・ご支援は何事にも代えがたくありがたいものがあります。そのような思いに浸りつつ帰路につく私の目に、凜とした朝の早池峰山が映りました。ふと石川啄木の「ふるさとの山に向ひて〜山はありがたきかな」という歌が浮かんできました。啄木さんは「山」に向かいましたが、私の思いは「人」でした。「ふるさとの人に向ひて言ふことなしふるさとの人はありがたきかな」と。(盗作です)

このような素晴らしいふるさとの皆さんとの交流も含めた総会・親睦交流会を開催していくことに大きな喜びと責任を感じています。今年は11月5日に開催します。今年の郷土芸能は八重畑地区の「五大堂神楽」の予定です。是非多くの会員の皆様のご出席をお願いします。前号にも申し上げましたがご家族揃って、またお孫さんを連れての出席も期待しております。

引き続き在京石鳥谷町人会の活動へのご協力・ご支援をお願い申し上げます。ありがとうございます。

紺綬褒章受章

在京石鳥谷町人会

参与 佐藤 忠男



本年三月初旬に花巻市の地域振興部大竹様より、紺綬褒章の内示を内閣府より頂いた旨のお電話を頂きました。その後十三日に市長さんより祝電を頂きましたので、改めて大竹様と連絡をとり、三月十七日拝受する旨承りました。この褒章は公益の為にある程度の私財を提供した個人又は団体に授与される褒章との事。私の平成二十八年度と令和四年度の寄付行為が、花巻市として勘案しての授与に相当するという判断をして下さったと思います。

私は昭和十六年東京の江戸川区新小岩で生を受け、昭和二十年の終戦の年に、東京に留まっていたのは危ないとの意より、六月に父の実家の石鳥谷町新堀に疎開する事となりました。私が四歳の時です。終戦が八月で

すからあと三か月終戦が早ければ、岩手は父の故郷と言うだけの地になっていたでしょう。これも「運命」というものでしょう。新堀小へ三年、四年生から同町好地へ引越し、石鳥谷小学校を卒業しました。中学・高校は盛岡へ、大学は東京へ進みました。当初からの人生設計で二十五歳に起業する旨決めていましたので、東京都北区赤羽にて建設業を創業しましたが三十八歳で失敗し、姉の提言で岩手に戻りました。捲土重来を期していずれ東京に戻る覚悟でしたので、四十八歳で改めて上京し、五十二歳で二度目の起業にこぎ着けました。早いもので、今年で丁度三十年になります。

十五年程前の読売新聞の夕刊に「ふるさと便り」の記事があり、「在京石鳥谷町人会」を知りました。懐かしさもあり、記事に記載されていた電話番号に連絡をし、故大竹雅夫氏と会話を致しました。お誘いを受け精養軒での総会にて初めて面会をし、今日に至る迄「在京石鳥谷町人会」の一員として行動を共にしてまいりました。参加して知った大竹様の命がけの故郷町人会に対する奉仕の精神を無言の中に教え込まれた様に思います。昨年六月に残念ながら天寿を全うされましたが、偉大な師匠でありました。

大竹雅夫氏の故郷を思う行動から、私も自然にいつの日か御縁を頂いた花巻市への御恩返しを少しはしようという思い、幾許の寄付を実行してまいりました。その事を花巻市としても評価し顕彰して下さいとの感謝を致しております。今年私も八十二歳冥土へのよきお土産を頂いたものと思いますし、最後良ければ全て良しという心境でもあります。在京石鳥谷町人会は元より、花巻人会、東和町友会、皆様との連携によってより良い形で存続出来ておりますが、尚一層の発展を祈念し、私の御礼の詞と致します。



雨のお花見クルーズ

在京石鳥谷町人会 企画 川村三郎



2023年3月26日(日)小雨の日本橋のシンボル麒麟の所に11時頃来ましたが、船着場には遊覧船は無くひっそりとしています。11時30分頃に参加者が続々と首都高速高架の下に集まって参りました。総勢41名です。

在京石鳥谷町人会は長年日本橋お花見クルーズを毎年の行事としていましたが、今年はクルーズ船1艘借りの貸し切りで実施したいと企画しチャレンジしました。その為に44名が参加して頂けな

ければならず瀬川花巻人会会長、蟹澤東和町友会会長のご協力を頂き1艘借り切る事が出来ました。

実は前日こんな事が有りました。朝から空が曇ってどんよりしていましたしテレビの天気予報の26日は1週間前と打って変わって雨模様を報じています。船会社の決まりとしては運行中止の場合は「前日の夕方と当日の朝のホームページにてお知らせします」となっておりますが、心配になり船会社の担当者に電話で状況確認をしてみますと、遊覧船を運航している会社は凡そ民間の天気情報を提供する会社と契約していてピンポイントの情報を得て運行の可否を決めている様です。担当者の説明も案内の通りですと言うだけでしたが昼過ぎにテレビの天気予報を見ていたまらずまた船会社に電話をかけて再度確認取



ろうとしました。もし中止となった場合は参加者への連絡が午後2時頃でしたら余裕を持ってお知らせ出来ますが、夕方の4~5時ですと各ご家庭の様子で連絡が取りにくくなり、皆様に大変ご迷惑をお掛けするのではないかと心配だったの



です。すると船会社の担当者から在京石鳥谷町人会さんは毎年お花見クルーズに参加頂いていますし1艘貸し切の団体ですので屋根付きの船を出せますが、45名乗りで少し狭く屋根のせいで展望が悪くなりますという提案がありました。早速高橋会長に提案の趣旨と提案を受けたい旨を連絡し、この提案を受ける事に決定し瀬川会長と蟹澤会長や他の参加者に決行の連絡と集合時間の確認を取りました。

当日乗り合いのお花見クルーズは全て中止となり観光会社の団体ツアーと在京石鳥谷町人会だけが小雨煙るお花見クルーズが出来ました。他の船がいな

いだけに川の航行が自由で右の桜、左の桜と蛇行しながら花見を満喫出来ました。

小雨だったので集合写真は撮れませんでしたけれど食事処「てけてけ」も飲み放題で大いに盛り上がりました。

来年も余程の事が無い限り“日本橋お花見クルーズ”を実施いたします。

今度は青空の下で桜を愛でたいと思います。

待つてま〜す!!



女子綱引きチーム「いしどりや」 応援報告

在京石鳥谷町人会 広報 上川信行

2023年6月25日 新規会員募集ちらし石鳥谷町内全世帯配布準備を兼ねて女子綱引きチームの練習にお邪魔して練習風景を見学致しました。女子綱引きチームが石鳥谷にある事、全国大会に20年連続出場している事は地元でもあまり知られていないようです。コロナ期間も黙々と周りに配慮しながら練習を続けてきたそうです。もう少しアピールしたほうが良いような気もしますが…。そのあたりも含め、チーム代表 畠山久美子さん(北寺林)、キャプテン 晴山和美さん(八重畑)さんにお話を伺いました。

【チーム概要】

1980年代頃に石鳥谷は綱引きが盛んでした。1980年代後半には女子チームが6チームもありましたが年々競技者が減りチームでの活動が難しくなってきた頃、愛好者が集まり1997年に現在のチーム「いしどりや」が結成されました。2000年に県大会で初優勝し全国大会の切符を手にしてから20年間全国大会連続出場することができ2023年に全日本綱引連盟より表彰を受けました。



【チーム構成】



■監督：室野努史(盛岡市玉山区)

2016年の岩手国体を機に男子・鷹高ウイナーズ(盛岡市玉山区)のメンバーから監督を引き受けて頂きました。

■選手：チーム代表 畠山 久美子(北寺林)

キャプテン 晴山 和美 (八重畑)

杉原 恵美 (八重畑) 佐藤 奈穂子 (北寺林) 田野 千佳子(八日市)
菅原 早紀 (紫波町) 鎌田 志緒里 (湯本) 菅原 範子 (星が丘)
鎌田 和* (二枚橋) 宮田 英恵* (上口) 佐藤 美沙子*(滝沢)

* (休部中、育休中)

【練習内容】 練習会場は八幡振興センター体育館(八幡小学校の東側)で週三回 19:30~21:00。そして月二回程度は鷹高ウイナーズの練習に参加し指導を受けています。チームメンバーは幅広い年齢層で構成されていて若者組は子育て、産休で練習に参加できない事が多く、年配組がその分、試行錯誤しながら頑張っています。



【今後の抱負】 まずは「永く続ける事」を目標とし、その目標達成の為に「チームメンバーが楽しく、安全・安心して活動できる場を作り、課題を一つずつ解決していきます。

【在京石鳥谷町人会の皆様へ】 いつも全国大会の応援に来て頂いて感謝いたします。応援して頂いても結果が伴わず、大変申し訳なく思っています。それでも皆さんの応援は私たちの力になっていることは間違いありません。

今後とも応援の程、宜しく願いいたします。

【取材感想】 全国大会で見せる緊張感とは違い、リラックスした雰囲気です。黙々とアップ、監督の指導で少ない人数ではあるが効率的な練習を行っている。綱引きは力の均衡から始まり、それが崩れて引かれ始める、またそれを均衡に戻すこの繰り返しで耐えきれない方が負けるのだらうと思う。メンバーが少ないので8対8の実戦形式の練習はできないが3対3の練習を見ていると知らないうちに手に力が入る。終わるとこちらもほっと気が抜けるのはなぜだろう！

少数精鋭で元気に試合に臨み、全国に「いしどりや」の名前を広めてください！応援しています！！

「第49回 岩手県人の集い」に参加して

在京石鳥谷町人会 企画

川村 三郎



令和5年6月11日(日)11時より上野不忍の池傍の東天紅上野店にて、第49回「岩手県人の集い」と銘打った令和5年度岩手県人会連合会総会が開催され、参加して来ました。

11時の開催宣言に始まり、物故会員や被災者に対し黙祷を行い、会長挨拶、令和4年度決算報告、活動報告と令和5年度予算報告と活動計画を発表し、新役員報告、総会決議を唱え、ご来賓紹介とご来賓挨拶が有り総会の部は終了しました。総会資料のご来賓名簿を見ると衆議院議員の方々全員が出席者は代理人の秘書の方だけでした。国会で岸田総理も解散をちらつかせていましたからしょうがないと思いました。

休憩中の歓談の最中に突然会場がざわざわと騒がしくなり多くの方が会場で入口の方に注目し始めました。我々のテーブルの所に来ていた八重樫和彦花巻副市長が「小沢一郎氏だ、小沢さんが入って来ましたよ」と言うのでそちらを見た所、一塊の人達の中に異彩を放った小沢一郎議員が満面の笑顔で手を振ったり、握手に応じたりと言うよりも積極的に手を差し伸べて握手を交わしておりました。徐々に来賓席の方に近づいて来て着席するかと思いきや会場を精力的に縦横無尽に歩き記念撮影に応じておりました。

懇親会が始まり、乾杯と懇談に移りアトラクションでは美穂藤彩鶴さんの日本舞踊と、岩手大船渡市出身のシンガーソングライター濱守栄子さんの歌で有り盛り上がりましたが、今年の岩手県人会連合会は小沢一郎議員のハプニングの熱が最後に仕切った様に感じました。

結局衆議院解散は無く春のつむじ風の様に通過ぎて行きましたけれど、流石に選挙となると敏感ですね

「第37回 在京花巻人のつどい」

在京石鳥谷町人会 広報

上川 信行



令和5年7月8日(土)東京ガーデンパレスにて第37回 在京花巻人のつどいが開催されました。在京石鳥谷町人会からは高橋会長、川村副会長、佐藤参与、私の4人が来賓として出席しました。参加者は130名で来賓が35名でした。私は今回アトラクションを依頼されていたのでメンバーの面倒も見なくてはならず、なかなか気持ちが落ち着きませんでした。瀬川紘一在京花巻ふるさと会会長の総会開会挨拶、予算・活動報告も順調に進み、懇親会のご来賓の上田東一花巻市長、藤原伸花巻市議会議長のご挨拶の後、乾杯と肅々と懇親会に移って行きました。私は控室で最後の音合わせをして、時折会場内の

盛り上がり度を確認していました。結構、飲んでるな・・・盛り上がっているなと思いました。

アトラクションは南米アンデス民族音楽(フォルクローレ)でケーナ、サンポーニャ、チャランゴといった民族楽器で演奏します。日本でも有名な「花まつり」「コンドルは飛んで行く」他2曲で、懇親会を盛り上げたと思います。

後半は一緒に踊ってくれてる女性達のおかげで、かなりヒートアップしたと思います。何はともあれ、懇親会を盛り上げる事ができホッとしました。演奏後に沢山の方から声を掛けて頂いて、私達ロス ボラーチョスも充分楽しめました。フィナーレは「賢治を歌う」ということで3曲 及川慎氏の歌唱指導による合唱、「相撲甚句」小原紘一氏と続き、高橋良光副会長の閉会挨拶、三本締めで閉会となりました。

「2023 いしどりやの夏」

各地区からの写真だよりです。

■ 八日市地区コミュニティ会議



「八日市長寿会の皆さん、花壇の花植え」
八日市運動公園 事務局員 熊谷 美雪



「二宮金次郎さんと紫陽花」
八日市運動公園 事務局員 高橋 麻美



「八日市振興センター駐車場から望む田園風景 3月と7月」

事務局員 高橋 麻美

■ 新堀地区コミュニティ会議



「地域の将来を考える会 於:新堀振興センター講堂」



「あじさいロードに可憐に咲いた白あじさいと戸塚森」
事務局員 石川 永子

■好地地区まちづくり委員会



7月29日(土)15:00~20:00 酒蔵まつり夏の陣 いしどりや夏祭りとしてイベントを酒蔵まつり実行団体協議会とまちづくり委員会で開催しました。写真は宝峰跡地、まちの駅酒蔵交流館を会場に屋台や、こども縁日まつり、地元出身のお笑い芸人、アンダーエイジのお笑いライブほか夏休みの特別企画として、アイス早食いや激辛カップラーメン早食い大会などを開催しました。今回のイベント来場者 3,000人(主催者発表)です。

事務局員 岡山 和恵

■八幡まちづくり協議会



「八幡神社 茅の輪くぐり」

事務局員 葛岡 真由美



「いしどりや荘 4年ぶりの慰問」

佐々木 英智



「ドローン空撮 (写真中央が八幡神社 右端が八幡小学校)」 葛岡 勝徳

■八重畑コミュニティ協議会



「権現堂山頂から八重畑を望む」



「八重畑小学校3年生によるりんご摘果体験」
事務局員 菊池 清子

■大瀬川活性化会議



「葛丸ダムと葛丸溪谷の夏」



「夏祭り」

事務局長 菅原 教雄

復刻「響け！学舎の歌」 顛末記

在京石鳥谷町人会 広報 上川 信行

「歌は思い出のインデックス」人にはそれぞれ思い出の歌があります。その歌、楽曲を聞いた時にその当時の思い出が瞬時に蘇って来る事はよくある事だと思います。そんな中に自分が卒業した小学校・中学校の校歌を聞く事が出来ました。その不思議な縁をつぶやきたいとおもいます。

事の始まりは今年の3月頃に玉山健司幹事が私に「こんなCDあるよ！」とCDを送ってくれました。

タイトルは『響け！学舎の歌 ～われらの心に永遠に～』と裏面を見ると石鳥谷の各小学校、中学校名が記載されていました。早速、聴いて見ました。それは各学校の校歌でした。一気に小学生、中学生時代にタイムスリップしました。



校歌を歌うシーンは入学式、卒業式しか思い浮かびませんが、とにかく自分がその歌声の一員になりきっていました。

これは凄い宝物だと思い、他に持っている人がいないか、探し始めました。まずは在京石鳥谷町人会 LINE で問い合わせしてみました。高橋会長の奥様が自宅にCDがある事をご存じでした。これで2枚目です。それ以降は発見されていません。

次に石中同級生 LINE に問い合わせしてみました。

好地コミュニティの藤館会長が「製作元に聞いて見たら何かわかるかも？」とのアドバイスがあり、制作会社のウイルビーに問い合わせしてみました。そしたらなんと原版があり、作製できることが分かりました。しかし、作製経緯も知りたくなり、当時の窓口を何とか教えてくれと頼みました。現在の大瀬川活性化会議の熊谷会長が担当のようだったので問い合わせました。

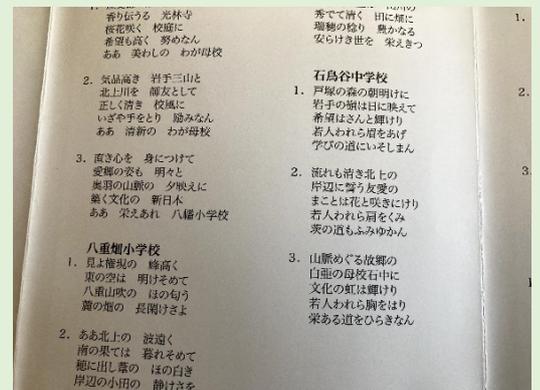
「平成17年の市町村合併の記念事業として、このCDが作られた。収録は平成17年8月に行われた。現役校は当時の児童生徒の合唱で、統廃合された小中学校は、当時在籍していた OB が思い出しながらピアノ伴奏に合わせて合唱したものである。主に PTA 会に配布されたと・・・」

似内元教育長から頂いた内容と連絡がありました。

平成18(2006年)年1月1日新花巻市が誕生し17年目となり、当時の記憶を呼び戻す事は無理でも、この校歌を聞けばもっと昔の思い出が蘇る、逸品です。

現在、佐藤参与の力添えにより、復刻版100枚を作製中で11月の在京石鳥谷町人会総会・親睦会で販売を検討しています。乞うご期待！

今回の調査で、大勢の方々にご支援、ご協力を頂き誠にありがとうございました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



石鳥谷に来た十一人

在京石鳥谷町人会

監事 柳原 政義

最近、自分の生まれ育ったふるさと石鳥谷が頭の隅っこを過ったである。ひと昔は酒の町で名を馳せていたのだが、最近では元気がないのが悲しいので他にお国自慢になるものが見つけれないか探してみた。ふと浮かんだのが、どんなビッグな人たちが石鳥谷に足を踏み入れたのだろうか探してみることにした。

◎一人目 日本武尊(生没年未詳)

蝦夷征伐について古事記では関東で U ターンしているが、日本書紀はかなり北上し石鳥谷を通過したのではないかと思われる。戸塚森の麓にある大石神社の境内にある巨石の窪みは日本武尊が登った足跡との言い伝えがあるから面白い！！一関に配志和神社という立派な社があり、その宮司が言うには日本武尊が創祀したと語っていたので、一関から石鳥谷はそう遠くないから可能性ありでは？

◎二人目 坂上田村麻呂(758～811)

私の生地江曾村の物知り老人は語った。昔々蝦夷征伐で坂上田村麻呂将軍が、この辺の蝦夷の族長アテルイに手こずり苦戦、やっとかさ捕まえ京都で斬殺したとのこと。こんな将軍でも信仰心が厚いのか、長谷堂にある長谷寺を開山したと伝えられ、さらに台温泉を見つけ開湯して今に続いていると聞かされたものだった。

◎三人目 弘法大師(774～835)

スーパーマン空海の神業の言い伝えは日本各地にあり、ふるさと石鳥谷にもある。国道4号線沿いのお小森観音参道登り口に銘木逆ヒバが仁王立ち、その根元に湧き水があり、弘法大師が杖を差し込んだら水が湧き出し多くの旅人の喉を潤したとのこと。

◎四人目 源義家(1039～1106)

天下一の武勇の士、八幡太郎義家は先の総理安倍晋三のご先祖様である安倍頼義一党討伐の前九年の役とその後清原一族内紛制圧の後三年の役にて故郷の大地で暴れまわったとのこと。実家近くの林に湧き水があり、義家一党が首切り刀に着いた血をそこで洗ったとの恐ろしい話を聞かされたものだった。

◎五人目 西行(1118～1190)

旅僧且つ歌僧でもある西行が、私の生地江曾村を通過した頃は、まだまだ蝦夷文化が色濃く残っていたのであろう。そこでこんな歌が、

「胡沙吹かば 曇りもぞする 陸奥の
江曾(蝦夷)には見せじ 秋の夜の月」

◎六人目 源義経(1159～1183)

日本人のヒーローNo.1 はなんといっても義経である。隣町の紫波町赤沢村に義経神社があり、秀衡に庇護を求めて平泉下りをした際に、この村に匿ってもらったという言い伝えがある。赤沢村に行くにはどうしても石鳥谷を通らなくてはならなかったはずだ！

◎七人目 一遍(1239～1289)

吾母校、八幡小学校の校歌に「歴史偲べば 良き郷土の香り伝う光林寺～」と歌われる我がふる里の名刹である光林寺に時宗の開祖一遍上人が建立落慶法要で導師して石鳥谷の土を踏んだのである。

◎八人目 長慶天皇(1343～1394)

天皇家が二手に分かれた南北朝時代の南朝出身の第98代天皇、長慶天皇が吾石鳥谷をご通過されたのである。権力回復支援を南朝方の南部公を訪ねる途中に休憩を光林寺でされ、その時長慶天皇が腰を掛けたと言われる石があり、これは凄い史実なのだと小学校長や古老から聞かされたものだった。

◎九人目 明治天皇(1852～1912)

腹黒い革命野心家達を上手く制御し、大日本帝国を世界にデビューさせた大君主明治天皇が、明治 9&14 年に行幸で石鳥谷を通過の際、塚の根の大原与五右衛門宅で休憩されたことを記念し石碑「明治天皇江曾小休所」が建立されたのである。小学生の頃、この家で神楽が舞われた際、我等見物悪童達は「明治天皇さん、どごさ座ったんだべな」と想像したものだ。明治天皇が北に進み、次に石鳥谷の街にご休息に同行者の杉宮内少輔に、元町長大森新陸の父大森新助が手打ち蕎麦を献上したところ、歌を詠まれたとのこと。

「石鳥谷 日本一の蕎麦なれば
寝覚め更科 一言も無し」

この歌、明治天皇陛下の御製だと教えられ暗記したものだ。

◎十人目 秩父宮(1902～1953)

昭和10年10月25日、第八旅団秋季機動演習で宮様の指揮で、八幡村耳取川周辺で旅団対抗演習が行われた。この時のエピソードが凄い！演習中に某宅に入り「俺は秩父だ、水を飲ませてくれ」とご所望したとのこと。兎に角フランクな宮様だったと村では語り草になって、4号線沿いに記念碑まである。

◎十一人目 宮澤賢治(1896～1933)

稗貫郡下の多くの農民は、科学的な米作りを賢治先生から教わったのである。湯本の整司伯父もその一人で、直筆肥料設計書を紛失してしまったことを残念がっていた。これにより稗貫地方の米の収量が大幅に上昇したそうである。賢治の生家花巻町の隣町である石鳥谷にはたくさんエピソードがころがっている。当時は後々“世界の賢治”と称されることは想像もしなかったことだろう！！

没後それとかなり時間がたってから米作り技術を教わった人達は賢治の偉大さ知ることになったのである。何と云っても、石鳥谷の街中の塚の根に“石鳥谷肥料相談所”を作り、無料で農業指導したことが石鳥谷にとって大きな足跡だと思われる。更に賢治作品には、大瀬川～八日市～八幡を流れる清流葛丸川沿い歩きを物語の振り出しにした岩石学ファンタジー、石っこ賢さんぶりを如実に表した“檜ノ木大学士の野宿”は鉱物マニアにはこたえられない作品がある。ここに葛丸川が登場するからには石鳥谷をしっかりと歩いた証拠なのである。

盛岡高等農林学校を卒業し、研究生として県内の土性調査に参加した際に、葛丸川沿いを歩き野宿した22歳の時の心境を歌ったのが…

「ほしぞらは しづにめぐるを わがころ
あやしきものに かこまれて立つ」

この心境をベースに描いたファンタジーが“檜ノ木大学士の野宿”なのだろう。

石鳥谷はどこにもあるような小さな町であるが、根掘り葉掘り調べるとこのように面白い昔に出会えることに感激した一時であった。

今回、“石鳥谷に来た11人”を書いてみて、改めて吾ふる里を誇りに思ったのである。また、ぼんやりする時間があつたなら、さらに著名人がいるのではと探してみたい心境になったのである。

【編集後記】



6月に新規募集チラシの件で大瀬川振興センターを訪問した際、物置に写真の物がありました

「もみ殻燻炭器」もみ殻を炭化させて田んぼにまいて酸性土壌を改善する。実家では融雪剤代わりにも使用していたような記憶があります。わかりますか？



6月の「枝垂れの梅」ちゃんです。上部を剪定してますが2mぐらいに成長しています。幹はまだまだ細いです。過酷な自然環境に耐えて一生懸命生きております。皆さんも励ましてやって下さい。

石鳥谷町全世帯 4,617 世帯に配布した「新規会員募集チラシ」の効果は如何に？

問い合わせメールが数件ありました。一歩前進かと思えます。在京石鳥谷町人会の若返り作戦……実施中です。

【お詫びと訂正】

在京石鳥谷町人会だより32号 5ページ氏名に誤りがありましたお詫びし訂正いたします。

【正:小森田 郁彦】 【誤:小森田 邦彦】